

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	すまいるスペースそよ風の手紙		
○保護者評価実施期間	令和6年9月25日		～ 令和6年11月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数) 21名
○従業者評価実施期間	令和7年3月1日		～ 令和7年3月8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月10日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	* スペースの広さ * スタッフの数 * 明るい雰囲気	* 他事業所に比べ、明らかな強みであると思う。スタッフの退職等で人員が一時的に減っても、しっかりと対応ができる。	* 広さを利用して、プログラムを充実させる。児童の成長に大きくかわる明るい雰囲気を今後も意識して療育したい。
2	* 個々の児童の特性を考えた手厚い支援	* スタッフ数が多いので、児童との関わりが手厚くできている。また、毎日30分のミーティングで情報共有が密となっている。	* 療育の核の部分でもあるので、児童の細かい情報共有は続けてゆく。
3	* 緻密な個別支援計画書	* 児童発達支援管理責任者が、児童を詳細に観察し、保護者の希望も含め、緻密に個別支援計画を立てている。	* 個別支援計画に沿った支援ができるよう職員全員が共通意識で、児童への療育に携わる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	* 入口に階段があるため安全性	* 構造上、無くすことはできないため、今後も必ず職員がついて階段で児童を昇降させている。	* 多人数をいっぺんに階段の昇降をさせない。必ず一人ずつ行うことを徹底する。
2	* 地域の他の子どもたちとの交流	* 子供の特性や、通所時間もあるため、地域の交流を行うのは現実的に難しい。	* 今後も、当事業所として地域交流は行わない。
3	* 保護者同士の交流	* 児童の療育をメインとして考えているため、また2020年のコロナ後の影響から行ってこなかった。	* 希望者があれば、積極的に保護者同士の交流の場を設けてゆく。